

ラベルをよく読む。記載以外には使用しない。 小児の手の届く所には置かない。

使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。空ビンには園場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

四石・Ⅲ・火気厳禁
マシン油

殺虫剤

農林水産省登録
第19159号



特製スカルシ[®] マシン油乳剤

家庭園芸用

500ml入



カイガラムシ



株式会社 二チノ一緑化

東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号

【成分】マシン油……………95.0%

乳化剤等……………5.0%

【性状】淡黄色澄明可乳化油状液体

【適用害虫と使用方法】

*印は、本剤及びその有効成分を含む
農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 時期	総使用回数* 本剤 マシン油
かんきつ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30~45	冬 期	—
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ、ハダニ類	100~200	夏 期	
落葉果樹 (なし、りんご かき、もも)	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及び その越冬卵	16~24	—	—
落葉果樹 桑		12~14	—	
りんご (北部日本 芽生前に 散布の場合)	カイガラムシ類	30~45		
も も	アブラムシ類	25	発芽前	

【使い方】散布



ラベル:PET
ボトル:PE
キャップ:PP
中 栓:PE

10B2808



△効果・被害等の注意

- 調製した薬液は速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、T・P・N剤などの水和剤及び銅剤との混用はさける。
- 高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- 散布直後の降雨は効果が低下するので、特に冬期散布においては、好天の続くときに使用する。
- かんきつに使用する場合は以下の事項に注意する。
 - 散布後、葉(特に旧葉)に油浸斑を生ずることがあるが日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはない。但し、樹勢が弱っている場合には散布しない。
 - ジチアノン剤との近接散布は果樹に薬害を生ずる危険があるのでさける。
 - 3月に使用するときは、なるべく早めに散布する。この場合石灰硫黄合剤の散布はさける。
 - ジメトエート剤との混用は、ヤノネカイガラムシ第一世代防除時期には、樹勢により落葉を助長することがあるのでさける。
- もものアブラムシ類を対象に散布する場合、モモアカアブラムシなどの休眠卵で樹上越冬するアブラムシ類を対象に発芽前に使用する。
- つめに使用する場合には落葉期での散布はさける。
- 桑に使用する場合には、発芽後に散布すると薬害を生ずるので、冬期又は夏初直後に使用する。
- 落葉果樹に使用する場合は以下の事項に注意する。
 - 芽が動き出してから散布すると薬害を生ずるおそれがあるので、発芽前に散布する。
 - 樹勢が弱っている場合は薬害を生ずるおそれがあるので散布しない。
- 自動車などの塗装面にかからないようにする(塗装汚染・変色)
- 魚毒性等…河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意。(魚類・甲殻類)。散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さない。

- ★飲めません。★有効年月内に使用する。
- ★体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。
- ★火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
- ★漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
- ★移送取扱いは、ていねいに行う。

保 管…密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない冷涼な所。

製 造 株 式 会 社 二 チ ノ 一 緑 化
東 京 都 中 央 区 小 伝 馬 町 1 4 番 4 号
製 造 場 サ ン ケ イ 化 学 株 式 会 社
鹿 児 島 工 場 鹿 児 島 市 南 栄 2 丁 目 9 番 地
最終有効年月(西暦下2けた)